

寺
こよみ

十月

一日	板屋お講
九日	清掃奉仕
十一日	歎異抄講座
一二日	お道具磨き
一三日	富山滑川報恩講
一四日	魚津報恩講
一六日	三日市お講
一七日	米とぎ
一八日	報恩講準備
一九日	報恩講
二〇日	報恩講ご満座
二二日	ほんこさん
二三日	真照寺報恩講
二四日	経田田家報恩講
二五日	東狐・青木報恩講
二六日	飯野芦崎報恩講
二七日	柳沢窪野報恩講
二七日	称名寺報恩講
二八日	
三一日	板屋報恩講

寺報

善 巧

発行

〒938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール info@zengyou.net
URL http://www.zengyou.net

十月十九、二十日
報恩講
十一月四、五日
空華忌



子供のころ、もっとも好きな季節は夏であった。贅沢に遊ぶということに縁はなかったが、無限とも思える自由があった。母の故郷で暮らした夏の輝き。糊の効いた真っ白なシーツ、そこで迎える家での眠りも、また絶品であった。

いま自分の好きな季節を言うのは難しいが、夏の終わりに寂しさを感ずるのは、昔と変わらない。もう一度海辺の輝きと戯れてみたい、そしてあと何回この夏を迎えることが出来るだろう、いつかそんなことを考える年齢になっている。

お釈迦様の入滅、涅槃をどう考えるかは、仏教徒にとって大きな課題の一つであった。それに対する大乘仏教からの答え、その集大成が「涅槃経」の成立であった。

季節の中で

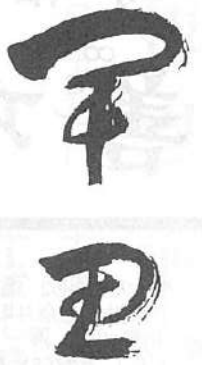
そこでは如来性の常住、仏性の常住が語られる。やがてそれは、「一切衆生悉有仏性」という、普遍的な世界観にまで展開されていく。

法然聖人は念仏することについて、「念仏の声を聞き、その一声一声に従って、決定往生と味わいなさい」と言い切っていた。念仏する時はいつも、往生が定まる時だと言うのである。それはここにいる私が、永遠の真実に出会う時なのでもあった。昔味わった夏もよかつたけど、こんな世界を学ばせてもらうようになった今もまた、幸せであると思う。

この寺報が出るころ、富山の秋は一段と深まっていることだろう。

行信教校講師

山本 撰叡師



歎異抄に聞く (最終回)



本願寺勸学

よしやましうかい
靈山勝海和上

「それほどの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしたちける本願のかたじけなさよ」という、この言葉は『註釈版』はこうなっておりますが、皆さんこの言葉はそらんじていらつしやるものでございますが、このようにはそらんじていらつしやるなと思います。「さればそくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしたちける本願のかたじけなさよ」

と、こう読んでいらつしやるに違いない。

ところでここが大変大切なところでございまして、今は『歎異抄』という書物がどこからもわんさと出ておりますが、従来『歎異抄』のスタンダードと申しますのは『註釈版』を前に置いていうのはどうかと思ひますが、やつぱり岩波から出ております金子先生校訂の『歎異抄』。あるいは角川でございしますが、梅原先生校

訂の『歎異抄』、この辺りが従来スタンダードと読んできた『歎異抄』でございします。梅原先生の『歎異抄』、これは角川でございしますが、梅原先生は西本願寺の学者でございしますから、蓮如本を見ることのできる方でございまして、蓮如本を底本として使われたのが角川文庫でございします。一方岩波の、金子先生の『歎異抄』というのは、金子先生が大派の学者ですから、蓮如本を親しく見ることはできないので、これは永正本、あるいは端の坊本と呼ばれるものを底本として用いられておるのであります。ところが『歎異抄』はわりと短い文章だと言ひながら、これを筆で写そうとしましたら、たとえ能筆な方であっても何日もかかります。そして写してみても、あちこちで「て・に・を・は」等の写し間違ひがあつて、校正しても、尚ミスというものはあるものでございします。私どもは活字

印刷の校正をしますが、三回やつても五回やつても、なお校正ミスが出てくる。ですから写していけば、どこか原本より間違つて写す、ということとは当然起つてくるもので、そういう辺りが蓮如本と永正本で違ふのです。

蓮如本ではここが「それほどの」とあるのに永正本ではここが「そくばくの」とあります。梅原先生は蓮如本を底本に使われたのですからここを「それほどの」とされれば良さそうなのに、これを梅原先生の識見で、「これは写し間違ひである。ことば使いとしてここは永正本のほうが正しい。」と、ここを校訂なさつてゐるのです。

梅原先生が何故そういう校訂をなさつたのかと申しますと、「それほどの」というのは、これはそういう指示代名詞を使つたら言葉は、何かそこに「それほど」を示すことの出来る分量のあるものが、なければ

ばなりません。「それほど」という言葉は、その語だけで、単独では意味を成さない言葉であります。そこには「それほど」の業」というものを、説明するような言葉がないから、ここは「それほど」よりは「そくばく」がよいとされたのです。「そくばく」という文字は、少量と書きます。本来、少量を意味する言葉ですが、中世、鎌倉時代、この『歎異抄』が書かれるような時代には、元の意味を失いまして、大量の、沢山の、まるで反対側の意味を持つ文字として、使われていたのです。ですから「さればそくばくの業をもちける身にてありけるを」は、肩で背負うことの出来ない程の深い業を持っているこの私を、助けようという本願のなにと尊いことであろうか。こっちの方がいいぞと、こう梅原先生がおっしゃって、この考え方が、例えば姫野先生という方が同志社におられます。

この方が『歎異抄の語学的研究』という書物を出しておられます。最近では安良岡康作という方が、旺文社文庫から、大変緻密な国語学 私、戦争中に育ちまして、戦後のどきどきに中学や高校を出たりしたものですから、修学旅行に行ったことが無かつたんですが、大学を出て高校の教員をしておりまして、昭和三十年の初め頃高校生を連れて修学旅行へ行つたのであります。京都から東京へ行きました。私は東京へ行つたことが無かつたのでありまして、富士山が見たくって見たくって、でもなかなか精進が良くなければ、富士山は見えないんだ、と言われておりました。その頃十何時間かかって、東京へ行つたんだと思いますが、朝起きたら生徒たちが「富士山や。富士山や。」ときけんでおります。「どこ。どこ。」と見ても、富士山が見えないのです。「先生そこと違う。あそこや。」

とこう言うんですね。今の新幹線からはどうであつたか記憶ありませんが、在来線で富士山というのは、我々の普通の視野にはなくて、本当に見えるようなところに富士山がそそり立つておる。余りに常識を超えた比較にならない高さで、常識の目には「どこや。どこにあるんや。」と見えない。そういうことを経験したことがあるのでございますが、富士山のことはないのであります。

ここの解釈でありまして、されば、それほどの業という、それほどとは、何故法蔵菩薩の願行が五劫思惟、兆載永劫でなければならなかつたのか。それは十方衆生を一人ずつ秤に載せたら、五劫思惟、兆載永劫の罪があるんだ、じゃない。私一人の罪業が、煩惱業が、法蔵菩薩が五劫思惟し、兆載永劫の修行をして下さらなければ、救うことのできないほどの重量を持つておる、

重さをもつておる、深さを持つておる。そのことを表すのは、「そくばく」ではないけません。そくばくは、まことに五劫思惟、兆載永劫に比べたら、少量でございまして、なんぼそくばくが、多くの重い、分量の多いものを表す言葉にしまして、それを五劫思惟、兆載永劫と比較しましたら、これは月とスッポンでございまして。ですから、ここをやつぱり皆さん方も自分の馴染んだ言葉では、「さればそくばく」の業をもちける身にてありけるを」であつても、是非ともこれは「それほど」の業「五劫思惟、兆載永劫の修行をして下さらなければ、救われることのできなかつたほどの、重いわが罪業を救わんがために、如来様の御修行があつたんだと、こうぜひとも読んでいたいただきたいのでございます。

(完)

永代祠堂会

七月十六〜十九日



今年も永代祠堂会が四日間勤まりました。ご講師は鹿兒島から初来院の加藤信行先生。福井千福寺高務哲量先生の従弟にあたられ、ご法話は明るく楽しく、参拝者にまた来たいと思ってもらえるような話をしたいという信念をお持ちです。

法座以外では、お勤めの前に日替わりで門徒さんに余興をお願いしました。マジックや踊りを披露していただき、十九日御満座ではお寺座クイズ。教化部長鬼原六義さんの司会で仏婦三会長・中林昌子・藤沢久美子・久田英子さんが解答者。

お焼香の仕方や、お仏壇のお給仕など身近なクイズに案外知らないことに気がつかれたようです。昨年からは始まったバザーも好評で、仏婦の活動資金にさせていただけると役員一同張り切ってお世話くださいました。



軽やかな舞踏
中林昌子さん、絹子さん(下立)



法要前のマジックショー
野崎高明さん(黒部市六天)



総代、仏婦、お世話方ご苦労様でした！



バザーも好評！



川瀬久義さん(東狐)、菊地れいさん(浦山)
へ感謝状が贈られました



ご門徒の作品をお借りして
門徒会館へ展示させていただきました

盆の三大行事

お寺にご縁のある若者が集まって行われる十三日の青年盆会。バーベキュー



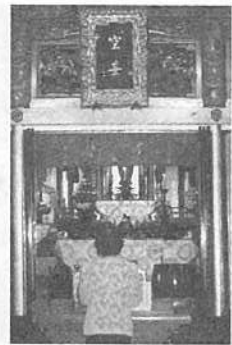
などを楽しみながら、お盆のお勤めをして法話を聞くご縁が続けています。幼い時からお寺に遊びに来ているのでお話も真剣に聞いています。今年には工夫を凝らした流しそうめんが好評でした。



十五日は恒例のこども盆おどり。今年は天候が不順で当日は雷に大雨。それでも大勢の日校OBや夢を語る会の皆さんのおかげで本堂は大賑わい。お父さんお母さんになったOBが増えて一、二歳の幼児たちが太鼓の周りを走り回っていました。盆おどりは子供たちにとって強烈な印象を与えるようであれから毎日ソーラン節を踊っていると。



初盆は家族にとつては悲しみの深まるもの。そんな中から仏様のお話は心に染み渡ります。懐かしい故人からのメッセージとしてお聴聞させていただきます。



十六日は盆参り。総代さんの発案で始められ、昨年からの初盆を迎えるご家族にご案内しています。



スタッフの皆さんお疲れさま！



善巧寺仏教婦人会

七月二日

第四回仏婦研修会が七月二日善巧寺本堂で開催されました。沢田なみ子さんの司会で進められ、

藤沢久美子会長の挨拶、開沢光子さんの仏婦綱領があり、本年度の講師は昨年に引き続き、副住職と坊守。副住職の講義Ⅰは「二河白道」から、坊

守の講義Ⅱは

「恵信尼さま」

のお話を聞きましました。閉会の言葉を檉初枝副会長が述べて最後に参加者三十一名が記念撮影をして研修会を終えました。その後は恒例の宇奈月温泉ホテルグリーン喜泉へ。身も心も和んだ一日でした。来年は新装なった恵信尼様の御廟へお参りしたい

ねという希望が出ていました。

この善巧寺仏教婦人会も形を変えて六年目になりますが、その前身を会長として十数年支えてくださった菊地れいさんに、後日の祠堂会で感謝状が渡されました。



雪ん子定期公演

八月二十日

雨が心配された野外公演でしたが決行しました。

前夜の舞台がいこから大雨で結局本堂でしかできなかったのですが、雪ん子全員力を合わせて良い舞台を作り上げました。途中「うちのとうちゃん

えらいんだ」のクライマックスで雨が降って観客は

動揺、席を移動しましたが、雪ん子たちは微動だ

にせず舞台をつとめました。「さすが雪ん子！」と

大向こうから声をかけた

い雪ん子たちでした。



第四回北陸中部 仏教婦人会大会

九月九日

富山県民会館で行われた表記の大会に十名が参

加しました。仏婦連盟総裁範孤お裏方ご臨席の大

会にあうご縁もめったにありません。特に今回は

話し合いの問題提起に「家族」をテーマにした寸

劇があり、照行寺坊守久美さんが役者として出演

とあつて応援にも熱がはいりました。連盟講師嘉

屋英嗣先生のお話を聴聞して改めてお念仏のある

家族の大切さを感じさせてもらいました。



寺
こよみ

十一月

一日 愛本新お講

二日 順昌寺報恩講

二日 空華忌準備

空華忌

四日 午後七時
五日 午前十時
午後一時

講師 山本摂叡師

七日 上野報恩講

八日 発願寺報恩講

九日 中新報恩講

一日 歎異抄講座

一日 出報恩講

一六日 浦山新お講

一八日 石田報恩講

二一日 中陣お講

二四日 析沢報恩講

二六日 雪ん子魚津公演

二九日 浦山新報恩講
三〇日

：川瀬久義さんインタビュー：

九月七日、門徒会館でお話を伺いました。入善町東狐にお住まいの川瀬久義さんはもうすぐ八十五歳におなりになります。白髪にして温顔、快くお話してくださいました。

(以下、川瀬さんをK、インタビュアー野崎さんをNと略させていただきます)



(N) 七月の永代祠堂会で感謝状をお受けになったご感想を。

(K) 善巧寺一族をはじめ総代会の皆様のご指導とご鞭撻のお蔭と有難く感激しております。

(N) 総代になられた経緯についてお話ください。

(K) 昭和五十二年に父

勇作が亡くなりました。この父が寺総代をしていた関係で世襲でもないのに総代会の一員となり、平成十六年まで務めました。

(N) 総代はどんな仕事をなさいますか。

(K) 寺の維持管理です。諸々の仏事の運営から経理、お御堂内外の整備まですべてを行います。門徒が一丸となつて務めなければならぬと常々思っております。

(N) 一番楽しかった思い出はどんなことですか。

(K) 先代隆弘師に引率されて昭和五十九年の冬「仏教遺跡巡拝の旅」をしたことです。インド、ネパール、スリランカに行きました。ネパールで日本語を学ぶ少年と知り合い、後にその少年ケサバ・ラル・マレリさんを家に招いたのもよい思い出です。



出です。

(N) 苦勞なさったことは？

(K) 三大法要、屋根の大修理、門徒会館の建設など大きな事業が相次ぎましたので、その資金集めに苦勞しました。特に門徒会館は反対もありましたので難儀しました。

(N) ご自身のお仕事や趣味についてお聞かせします。

(K) 富山県職員として

三十六年余り土木関係の仕事をしておりまして。今は油絵を描いております。

大銀杏と本堂をお描きになった絵が佛寺にあります。祠堂会の時もネパールの風景画をお出しになりました。

探究心旺盛な川瀬さんはパソコンでメールも楽しんでおられます。

(N)

寺
ごよみ

十二月

- | | |
|-------------|-----------------|
| 一
日 | 下立愛本お講 |
| 二
日 | 愛本新報恩講 |
| 三
日 | 愛本新中ノ口 |
| 四
日 | 赤田報恩講 |
| 五
日 | 清掃奉仕 |
| 六
日 | 大橋下村報恩講 |
| 六
日 | 下村報恩講 |
| 八
日 | 常見寺前住職
三回忌法要 |
| 一
二
日 | 下立愛本報恩講 |
| 一
三
日 | 歎異抄講座 |
| 一
四
日 | 内山報恩講 |
| 一
六
日 | 浦山お講 |
| 一
九
日 | 団体参拝旅行 |
| 二
〇
日 | |
| 一
五
日 | 音沢報恩講 |
| 二
二
日 | |
| 二
五
日 | 仏婦総会 |
| 二
九
日 | 米とき |
| 三
〇
日 | もちつき |
| 三
一
日 | 日校もちつき
除夜会 |

報 恩 講

浄土真宗で最も大切な
親鸞聖人の法要です。

十月十九日 午後一時半 お逮夜

午後七時 公開法座

二十日 午前十時 お日中

午後一時半 ご満座

「本願はだれがために」

発願寺住職 川崎順正師

聞法の秋です。どうぞ
どうぞお参りください。

空 華 忌

善巧寺限定の僧侶さま
の法要です。

十一月四日 午後七時 公開法座

五日 午前十時 お日中

午後一時 ご満座

「妙好人のことば」

本願寺派司教 山本摂叡師

ほんこさん

十月十三日富山滑川か
らはじまります。年に一
度のほんこさま、大切に
お勤めいたしましょう。
赤いろうそく、お香、お
花、聖典、式章、お念珠
を用意しましょう。おつ
とめの『お正信偈』は是
非ご一緒にどうぞ。

報恩講準備

十月九日 午前八時半
清掃奉仕

十二日 午前八時半
お道具磨き

十七日 午前八時半
米とぎ

十八日 午前八時半
お華束掃除

空華忌準備

十一月二日 午前八時半
お華束

屋内清掃

越冬清掃奉仕

(雨天順延)

十二月四日 午前八時半

仏婦總會

十二月二十五日

日曜学校

もちつき大会

十二月三十日 午前十時

除夜会

お勤め

十二月三十一日

午後十一時半

除夜の鐘

一月一日午前〇時



合 掌

台風、集中豪雨、酷暑
と大変な夏でした。富山
もいつなんどき何が起こ
るやらわかりません。盆
おどりはどしや降りの中、
本堂というドームの中で
行いました。可愛い浴衣
姿の幼児の多いこと。親
を眺めると二、三十年前
この本堂で遊んでいた顔
ばかり。ここでは親の縁
が子供の縁につながって
います。嬉しいですねえ。

* * *

北陸仏婦大会では「家
族」がテーマでしたが、
わが寺の盆踊りを眺めな
がら親子が仏様を中心に
集う姿、これこそ真の家
族の姿だと胸熱くしたこ
とです。

* * *

聞法の秋、心静かにお
聞かせいただき
ましょう。

